

心臓血管病 背景に何が

信大など市民公開講座

信州大学院医学研究科（松本市）が開設した寄付講座「循環器再生医学講座」が本年度で三周年となるのを記念し、心臓血管病の予防や治療について話し合う市民公開講座が、このほど松本市内で開かれた。心筋梗塞（こうそく）などの心臓病は、日本人の死因の中で次に次いで第二位。病気の背景に何があるのか、最新の治療法は。会場の参加者から質問が相次いだパネルディスカッションの内容を紹介する。司会者は飯島裕一・信濃毎日新聞編集委員。（文中敬称略）



心臓血管病の治療や予防について話し合ったパネルディスカッション

「心臓血管病が増えている原因は何か。」

高久史磨 確実に言えるのは日本人の食生活が欧米化したことだ。米国人の死

因で圧倒的に多いのは心臓疾患。ネズミを使った実験で、日本食を与えるとコレステロール値が低かったが、米食では値が高くな

り、心筋梗塞などの危険性が高まるメタボリック症候群になりやすいとの研究結果も出ている。塩分さえ減らせば日本食は健康にいい。

高血圧や糖尿病といった生活習慣病は、食事や運動など生活習慣の積み重ねで発症する。健康につながる生活習慣を身に付ける狙いで、国の健康づくりの指針「健康日本21」が二〇〇

年から始まっている。

「不整脈の質問が多かった。不整脈にもさまざまなタイプがあるようだ。木下修 生命が危険になる不整脈はくわすか。ほとんどの心配ない。心配な方は心電図を取るなど診察を受け、きちんと見極める」とい。怖い不整脈でも治

ら始めた。手足の血管が詰まる難病パーキンソン病（ピルカール病）や閉塞性動脈硬化症の患者十九例に行い、改善率は90%だ。同じ治療法を心臓の血管再生にも一例実施した。血管をつくるタンパク質の遺伝子を注射する遺伝子治療は二例行っている。

池田 心臓が正しく働くには、表面の冠状動脈に血液が十分流れるだけでなく、筋肉がきちんと拍動する必要がある。この筋肉の活動が落ちたのが心筋症だ。現在の骨髄細胞による治療法では筋肉を再生するのは難しい。海外では患者の骨格筋を取ってきて培養し、心臓に移植する治療も始まっている。

生活習慣積み重ね原因

高久氏

軟らかい動脈硬化多い

池田氏

再生治療改善率は90%

天野氏

不整脈の治療法は確立

木下氏

「狭心症や心筋梗塞を虚血性心疾患というが、虚血とはどういうことか。池田宇一 複数の生活習慣病が重なると、コレステロールが血管の内側に沈着して動脈硬化が進み、血流が減った状態が虚血だ。か

「信大ではどのような再生医療を実施しているか。天野純 患者から取った骨髄細胞を移植して血管を再生する治療を、〇三年か

「病院や医師ごとの手術実績や結果の公表は進んでいるか」との質問だが、天野 信大病院の心臓バypass手術は年間三十一例、十例。あらかじめ予定していた手術で亡くなった患者

【パネリスト略歴】
高久史磨氏（たかく・ふみまろ）自治医科大学長、日本医学会会長、東大名誉教授。医学博士。1993年東京生まれ。東大医学部卒。専門は血液学。

池田宇一氏（いけだ・ういち）信大循環器内科・循環器再生医学講座教授。1953年長野市生まれ。自治医科大学卒業。医学博士。専門は循環器内科、再生医療。

天野純氏（あまの・じゅん）信大心臓血管外科教授。1948年徳島県生まれ。信大医学部卒業。順天堂大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。専門は心臓血管外科。

木下修氏（きのした・おさむ）信大循環器内科・循環器再生医学講座助教授。1958年飯田市生まれ。富山大医学部卒業。専門は循環器内科、再生医療。

「病状や医師ごとの手術実績や結果の公表は進んでいるか」との質問だが、天野 信大病院の心臓バypass手術は年間三十一例、十例。あらかじめ予定していた手術で亡くなった患者

はゼロだが、緊急に行った手術では、容体の重い患者が一人亡くなっている。こうしたデータは、全国的な状況のみ学会ホームページなどで閲覧できるようにしている。

池田 信大で行った心臓カテーテル検査は年間約千例。うち、造影剤によるアレルギーや出血などの合併症は一例ほどだ。

高久 米国では病院や医師ごとにデータを公表しており、日本も見習うべしとの声は多い。ただ、成績を上げるために難しい手術は他の病院へ回してしまつていすもあると聞く。一長一短だ。また手術はチームで行つから、病院単位での公表でいいと思う。

「ピンピンコロリで天寿を全うする方法を教えてください」との質問が寄せられている。

高久 健康で自立した生活ができる「健康寿命」を延ばすには、三つの原則がある。たばこを吸わない、体重を増やさない、定期的に運動する。これらの原則を守るかどうかで健康寿命に十年の差が出たとの米国の調査結果もある。

天野 信大病院は今まで数居の高い部分があった。これからは病気の治療だけでなく予防の活動にも力を入れていく。ぜひ足を運んでほしい。